

## 平成 27 年度教育・保育事業における量の見込みと確保方策の進捗について

平成 27 年 3 月に策定した鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン～かまくらっ子をみんなで育てよう！～（以下「本プラン」という。）第 5 章（p.72～）4 幼児期の教育・保育事業の量の見込みと確保方策のうち、教育事業における量の見込みと確保方策（p.77、78）及び保育事業における量の見込みと確保方策（p.79～81）に係る平成 27 年度の進捗等について報告いたします。

### 1 平成 27 年度教育事業について

認定こども園及び幼稚園が提供する 3 歳から就学前までの児童を対象とした教育事業の進捗状況は、次のとおりです。

#### (1) 量の見込みについて

平成 27 年度教育事業における教育ニーズの量の見込みと、実際のニーズ量については、表 1 のとおりです。実際の量が量の見込みを 132 人下回りました。

なお、実際の量は、平成 27 年 5 月 1 日時点の就園奨励費対象児童数調査に基づく幼稚園児在籍児（私学助成の幼稚園児）数及び教育給付費の対象としている児童（特定教育・保育施設の 1 号認定児）数の合計数を指標としています。

表 1 平成 27 年度教育ニーズの量の見込みと実際の量

全市	教育事業のニーズ量（人）		
	量の見込み①	実際の量②	差②－①
1号認定・2号（教育）（3歳～就学前）	2,599	2,467	▲ 132

#### (2) 確保方策について

平成 27 年度教育事業における確保方策と、実際の平成 27 年 4 月 1 日時点の幼稚園児等施設定員数については、表 2 のとおりであり、確保方策と定員数が一致しています。

表 2 平成 27 年度教育事業の確保方策と施設定員数

全市	確保方策（教育事業）（人）		
	確保方策③	定員数④	差④－③
1号認定・2号（教育）（3歳～就学前）	3,829	3,829	0

#### (3) 量と確保方策について

本プランの教育事業の量の見込みと確保方策は表 3 のとおりです。本プランにおいては、確保方策が量の見込みを 1,230 人上回ることを見込みました。

平成 27 年度の実際の量と定員数については表 4 のとおりです。実際の量に対して定員数が 1,362 人上回っており、ニーズに対し、十分な体制が確保されています。また、教育事業においては、表 5 のとおり平成 27 年度をピークに平成 31 年度までの期間において量の見込みが減少することが想定されており、提供体制が継続して充足する見込みとなっています。

表 3 平成 27 年度教育ニーズの量の見込みと確保方策（本プラン）

全市	量の見込みと確保方策（人）		
	量の見込み①	確保方策③	差③－①
1号認定・2号（教育）（3歳～就学前）	2,599	3,829	1,230

表4 平成27年度教育ニーズの実際の量と定員数

全市	実際のニーズ量と定員数（人）		
	実際の量②	定員数④	差④－②
1号認定・2号（教育）（3歳～就学前）	2,467	3,829	1,362

表5 年度別教育事業の量の見込みと確保方策

年度	H27	H28	H29	H30	H31
量の見込み（人）	2,599	2,582	2,495	2,448	2,311
確保方策	3,829	3,772	3,759	3,723	3,721

## 2 平成27年度保育事業について

保育所、認定こども園及び小規模保育事業等の地域型保育事業者が提供する0歳から就学前までの保育事業の進捗状況については、次のとおりです。

ただし、確保方策が施設定員に基づき算出されていることに対し、定員を超えた弾力的な運用により確保された数をどのように整理するかなど、国及び県において現時点で評価に関し未整理の部分があり、平成27年度の具体的な評価については、国及び県の考え方を踏まえ、今後改めて整理を行う予定です。

### (1) 量の見込みについて

本プランにおける平成27年度年度当初の保育事業のニーズ量の見込みと、実際のニーズ量（平成27年4月1日時点における保育認定児童数（2号・3号）の合計数）については、表6のとおりです。また、地域別は表7のとおりです。量の見込みと実際の量を比較すると、3歳以上児においては実際の量が量の見込みを55人上回り、1・2歳児及び0歳児において、それぞれ実際の量が量の見込みを104人及び41人下回るという結果となりました。

ただし、実際の量に平成27年度中の支給認定児数が反映されていないため、今後の評価方法の整理と併せて検討します。

表6 平成27年度保育ニーズの量の見込みと実際の量

全市	保育事業のニーズ量		
	量の見込み①	実際の量②	差②－①
2号認定（3歳以上児）	1,318	1,373	55
3号認定	1・2歳児	1,008	904 ▲ 104
	0歳児	252	211 ▲ 41
合計	2,578	2,488	

表7 平成27年度保育ニーズの量の見込みと実際の量（地域別）

鎌倉地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み①	実際の量②	差②-①
2号認定（3歳以上児）		315	338	23
3号認定	1・2歳児	257	241	▲16
	0歳児	72	49	▲23
合計		644	628	

腰越地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み①	実際の量②	差②-①
2号認定（3歳以上児）		143	130	▲13
3号認定	1・2歳児	96	83	▲13
	0歳児	16	14	▲2
合計		255	227	

深沢地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み①	実際の量②	差②-①
2号認定（3歳以上児）		295	308	13
3号認定	1・2歳児	225	176	▲49
	0歳児	49	42	▲7
合計		569	526	

大船地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み①	実際の量②	差②-①
2号認定（3歳以上児）		389	414	25
3号認定	1・2歳児	306	292	▲14
	0歳児	49	81	5
合計		771	787	

玉縄地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み①	実際の量②	差②-①
2号認定（3歳以上児）		176	183	7
3号認定	1・2歳児	124	112	▲12
	0歳児	39	25	▲14
合計		339	320	

(2) 確保方策について

本プランの平成27年度保育事業における確保方策に対する平成27年4月1日時点の年度当初保育所等定員数（以下「当初定員数」という。）については表8のとおりであり、実際に平成27年度に整備を行った保育所等定員数（以下「定員数」）は表9のとおりです。また、この地域別の状況は表10のとおりです。

年度当初（表8）においては、3歳以上児において42人、1・2歳児30人、0歳児8人確保方策を下回っていますが、年度中の整備（表9）により、全体数では85人の定員数の増が図られ、また、玉縄地域の公立保育園の建替え及び民間保育所設置に当たり、当初予定していた定員構成から低年齢児の受入れを拡大した定員構成に変更したこと、事業所内保育事業所が新設されたことに伴い、計画に対する実際の定員数では、3歳以上児が15人下回り、1・2歳児が15人、0歳児5人上回っている状況です。

表8 平成27年度保育事業の確保方策と当初定員数

全市		確保方策（保育事業）（人）		
		確保方策③	当初定員数④	差④-③
2号認定（3歳以上児）		1,345	1,303	▲42
3号認定	1・2歳児	774	744	▲30
	0歳児	230	222	▲8
合計		2,349	2,269	

表9 平成27年度保育事業の確保方策と定員数

全市		確保方策（保育事業）（人）		
		確保方策③	定員数⑤	差⑤-③
2号認定（3歳以上児）		1,345	1,330	▲15
3号認定	1・2歳児	774	789	15
	0歳児	230	235	5
合計		2,349	2,354	

※確保数⑤では国の整備事業数との整合を図り平成28年4月1日開設分玉縄地域59名分を含む。含めることの妥当性について、今後検討。

表 10 平成 27 年度保育事業の確保方策と定員数（地域別）

鎌倉地域		確保方策（保育事業）（人）		
		確保方策③	定員数⑤	差⑤-③
2号認定（3歳以上児）		218	218	0
3号認定	1・2歳児	126	126	0
	0歳児	32	32	0
合計		<b>376</b>	<b>376</b>	

腰越地域		確保方策（保育事業）（人）		
		確保方策③	定員数⑤	差⑤-③
2号認定（3歳以上児）		62	62	0
3号認定	1・2歳児	34	34	0
	0歳児	10	10	0
合計		<b>106</b>	<b>106</b>	

深沢地域		確保方策（保育事業）（人）		
		確保方策③	定員数⑤	差⑤-③
2号認定（3歳以上児）		383	383	0
3号認定	1・2歳児	222	222	0
	0歳児	70	70	0
合計		<b>675</b>	<b>675</b>	

大船地域		確保方策（保育事業）（人）		
		確保方策③	定員数⑤	差⑤-③
2号認定（3歳以上児）		461	461	0
3号認定	1・2歳児	290	290	0
	0歳児	87	87	0
合計		<b>838</b>	<b>838</b>	

玉縄地域		確保方策（保育事業）（人）		
		確保方策③	定員数⑤	差⑤-③
2号認定（3歳以上児）		221	206	▲ 15
3号認定	1・2歳児	102	117	▲ 15
	0歳児	31	36	▲ 5
合計		<b>354</b>	<b>359</b>	

(3) 量と確保方策について

本プランにおける量の見込みと確保方策については、表 11 のとおりです。平成 27 年度においては、確保方策が量の見込みを 3 歳以上児では 27 人上回り、1・2 歳児では 234 人、0 歳児では 22 人下回ることが見込まれていました。

平成 27 年度における保育ニーズの実際の量に対する年度内整備を含めた実際の定員数は表 12、地域別の状況については表 13 のとおりです。

実際の量と定員数の比較においては、全体数としては表 12 のとおり 3 歳以上児 43 人、1・2 歳児 115 人の不足が示されますが、実態としては、地域別集計の表 13 全市（不足分）のとおり、各地域の不足分の積み上げにより、3 歳以上児 78 人、1・2 歳児 122 人、0 歳児 6 人の不足が生じています。

内容をみると、鎌倉地域で 252 人（実保育量 628 人-確保数 376 人）、腰越地域で 121 人（実保育量 227 人-確保数 106 人）の不足が生じますが、平成 27 年 4 月 1 日入所者において、地域間に流動性があるため、鎌倉地域では 95 人（33 人+56 人+6 人）、腰越地域では 26 人（14 人+11 人）の不足が生じ、また、深沢地域では実保育量を上回る保育確保数にも関わらず、地域間流動性のため 63 人（31 人+32 人）の不足が生じています。

なお、地域間の流動とは、地域の実際の量を「児童の住民登録地」から算出するのに対し、定員数は保育所等の「施設の所在地」に基づくため、鎌倉地域に住民登録を行っている者が、深沢地域の施設に入所した場合など、地域間に流動が生じることであり、表 13 では、平成 27 年 4 月 1 日時点の地域流動性を含む数となっています。

表 11 平成 27 年度保育ニーズの量の見込みと確保方策（本プラン）

全市		保育事業（人）		
		量の見込み①	確保方策③	差③-①
2号認定（3歳以上児）		1,318	1,345	27
3号認定	1・2歳児	1,008	774	▲ 234
	0歳児	252	230	▲ 22
合計		<b>2,578</b>	<b>2,349</b>	

表 12 平成 27 年度保育ニーズの実際の量と定員数

全市		保育ニーズ量と定員 (人)		
		実際の量②	定員数⑤	差⑤-②
2号認定 (3歳以上児)		1,373	1,330	▲ 43
3号認定	1・2歳児	904	789	▲ 115
	0歳児	211	235	▲ 24
合計		2,488	2,354	

表 13 平成 27 年度保育ニーズの実際の量と定員数 (地域別・地域流動性を含む)

鎌倉地域	保育ニーズ量と定員 (人)			
	実際の量②	定員数⑤	他地域流動⑥	差⑤+⑥-②
2号認定 (3歳以上児)	338	218	87	▲ 33
3号認定	1・2歳児	241	126	▲ 56
	0歳児	49	32	▲ 6
合計	628	376	157	

腰越地域	保育ニーズ量と定員 (人)			
	実際の量②	定員数⑤	他地域流動⑥	差⑤+⑥-②
2号認定 (3歳以上児)	130	62	54	▲ 14
3号認定	1・2歳児	83	34	▲ 11
	0歳児	14	10	6
合計	227	106	98	

深沢地域	保育ニーズ量と定員 (人)				
	実際の量②	定員数⑤	他地域流動⑥	差⑤+⑥-②	
2号認定 (3歳以上児)	308	383	▲ 106	▲ 31	
3号認定	1・2歳児	176	222	▲ 78	▲ 32
	0歳児	42	70	▲ 16	12
合計	526	675	▲ 200		

大船地域	保育ニーズ量と定員 (人)				
	実際の量②	定員数⑤	他地域流動⑥	差⑤+⑥-②	
2号認定 (3歳以上児)	414	461	▲ 40	7	
3号認定	1・2歳児	292	290	▲ 21	▲ 23
	0歳児	81	87	0	6
合計	787	838	▲ 61		

玉縄地域	保育ニーズ量と定員 (人)				
	実際の量②	定員数⑤	他地域流動⑥	差⑤+⑥-②	
2号認定 (3歳以上児)	183	206	5	28	
3号認定	1・2歳児	112	117	2	7
	0歳児	25	36	▲ 1	10
合計	320	359	6		

全市 (不足分)			
2号認定 (3歳以上児)	▲ 78		
3号認定	1・2歳児	▲ 122	
	0歳児	▲ 6	
合計	▲ 206		

(4) 保育ニーズの実際の量と実入所児童数について (参考)

ア 定員を超えた受入れ状況 (平成 27 年 4 月 1 日時点)

本プランでは、確保方策は国の方針により利用定員を基準としていますが、保育所等では、定員を超えた弾力的な受入れを行っており、今後の確保方策の検討に当たり、整理すべき課題となっています。

参考として、平成 27 年 4 月 1 日時点の年度当初の定員数と実入所者数の比較は表 14 のとおりであり、定員を超えた入所を行ったことにより、定員を上回って 3 歳以上児では 62 人、1・2 歳児においては 116 人、合計 178 人入所した数となっています。

表 14 平成 27 年度当初定員数と実入所者数

全市		保育事業 (人)		
		当初定員数④	実入所者数⑥	差⑥-④
2号認定 (3歳以上児)		1,303	1,365	62
3号認定	1・2歳児	744	860	116
	0歳児	222	178	▲ 44
合計		2,269	2,403	

イ 保育ニーズの実際の量と実入所者数

平成 27 年 4 月 1 日時点における保育ニーズの実際の量と実入所者数は表 15 のとおり、地域別は表 16 のとおりです。

全体数では、表 14 のとおり定員を超えた入所が行われましたが、平成 27 年度当初においては保育量を下回る状況が生じています。

また、地域別においては、表 16 のとおり、地域流動性の影響もあり各地域において不足数が生じているものの、全市では 3 歳以上児 38 人、1・2 歳児 55 人、0 歳児 33 人の不足となり、表 13 の保育確保数に対する不足数 206 人を下回る状況です。

表 15 平成 27 年度保育ニーズの実際の量と実入所者数

全市		保育事業（人）		
		実際の量②	実入所数⑥	差⑥-②
2号認定（3歳以上児）		1,373	1,365	▲ 8
3号認定	1・2歳児	904	860	▲ 44
	0歳児	211	178	▲ 33
合計		2,488	2,403	

表 16 平成 27 年度保育ニーズの実際の量と実入所者数（地域別・地域流動性有）

鎌倉地域		保育事業（人）			
		実際の量②	実入所数⑥	他地域流動⑦	差⑥+⑦-②
2号認定（3歳以上児）		338	228	87	▲ 23
3号認定	1・2歳児	241	150	59	▲ 32
	0歳児	49	33	11	▲ 5
合計		628	411	157	

腰越地域		保育事業（人）			
		実際の量②	実入所数⑥	他地域流動⑦	差⑥+⑦-②
2号認定（3歳以上児）		130	66	54	▲ 10
3号認定	1・2歳児	83	32	38	▲ 13
	0歳児	14	4	6	▲ 4
合計		227	102	98	

深沢地域		保育事業（人）			
		実際の量②	実入所数⑥	他地域流動⑦	差⑥+⑦-②
2号認定（3歳以上児）		308	416	▲ 106	2
3号認定	1・2歳児	176	252	▲ 78	▲ 2
	0歳児	42	54	▲ 16	▲ 4
合計		526	722	▲ 200	

大船地域		保育事業（人）			
		実際の量②	実入所数⑥	他地域流動⑦	差⑥+⑦-②
2号認定（3歳以上児）		414	482	▲ 40	28
3号認定	1・2歳児	292	324	▲ 21	11
	0歳児	81	69	0	▲ 12
合計		787	875	▲ 61	

玉縄地域		保育事業（人）			
		実際の量②	実入所数⑥	他地域流動⑦	差⑥+⑦-②
2号認定（3歳以上児）		183	173	5	▲ 5
3号認定	1・2歳児	112	102	2	▲ 8
	0歳児	25	18	▲ 1	▲ 8
合計		320	293	6	

全市（不足分）	
2号認定（3歳以上児）	▲ 38
3号認定 1・2歳児	▲ 55
3号認定 0歳児	▲ 33
合計	▲ 126

(5) 平成 29 年度保育ニーズ量との比較について

ア 確保方策との比較

本プランにおいては、平成 29 年度に待機児童が解消されるよう施設等の整備を進めることとなっています。また、平成 29 年度までに保育ニーズ量が人口減少に伴い、平成 27 年度の量の見込み 2,578 人から 2,411 人まで 167 人分減少することが見込まれています。

このため、今後の不足数を把握するため、平成 29 年度に見込まれている保育ニーズの量の見込みと平成 27 年度の定員数との比較を行いました。全体は表 17 のとおり、各地域は表 18 のとおりです。

全体数（表 17）では 1・2 歳児においてのみ不足が生じるように見えますが、地域別（表 18）に整理を行った場合、1・2 歳児を中心に確保数の不足が生じる見込みとなっており、3 歳以上児が 31 人、1・2 歳児が 124 人、0 歳児が 11 人不足している状況です。

表 17 平成 29 年度保育ニーズの量の見込みと平成 27 年度定員数

全市		保育事業（人）		
		H29量の見込み⑧	H27定員数②	差②-⑧
2号認定（3歳以上児）		1,264	1,330	66
3号認定	1・2歳児	913	789	▲ 124
	0歳児	234	235	1
合計		2,411	2,354	

表 18 平成 29 年度保育ニーズの量の見込みと平成 27 年度定員数(地域別・地域流動有)

鎌倉地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27定員数②	H29地域流動性⑨	差②+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		305	218	91	4
3号認定	1・2歳児	219	126	35	▲58
	0歳児	66	32	24	▲10
合計		590	376	150	

腰越地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27定員数②	H29地域流動性⑨	差②+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		150	62	68	▲20
3号認定	1・2歳児	81	34	29	▲18
	0歳児	15	10	6	1
合計		246	106	103	

深沢地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27定員数②	H29地域流動性⑨	差②+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		270	383	▲124	▲11
3号認定	1・2歳児	209	222	▲33	▲20
	0歳児	45	70	▲26	▲1
合計		524	675	▲183	

大船地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27定員数②	H29地域流動性⑨	差②+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		383	461	▲56	22
3号認定	1・2歳児	294	290	▲22	▲26
	0歳児	72	87	▲9	6
合計		749	838	▲87	

玉縄地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27定員数②	H29地域流動性⑨	差②+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		156	206	21	71
3号認定	1・2歳児	110	117	▲9	▲2
	0歳児	36	36	5	5
合計		302	359	17	

全市 (不足分)	
2号認定 (3歳以上児)	▲31
3号認定 1・2歳児	▲124
3号認定 0歳児	▲11
合計	▲166

イ 実入所者数との比較 (参考)

参考として、平成 29 年度の保育ニーズの量の見込みと平成 27 年度当初の実入所者数との比較について、全体は表 19、地域別の状況は表 20 のとおりです。

腰越地域を中心に不足が生じ、全体の不足数は、3歳以上児が 16 人、1・2歳児が 71 人、0歳児が 56 人となっています。これは、表 18 の確保方策上の不足分を下回り、確保方策に比べ、平成 29 年度のニーズ量に対する必要な保育体制の規模が小さくなります。

表 19 平成 29 年度保育ニーズの量の見込みと平成 27 年度実入所者数

全市		保育事業 (人)		
		H29量の見込み⑧	H27実入所数⑥	差⑥-⑧
2号認定 (3歳以上児)		1,264	1,365	101
3号認定	1・2歳児	913	860	▲53
	0歳児	234	178	▲56
合計		2,411	2,403	

表 20 平成 29 年度保育ニーズの量の見込みと平成 27 年度実入所者数 (地域別・地域流動有)

鎌倉地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27実入所数⑥	H29地域流動性⑨	差⑥+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		305	228	91	▲14
3号認定	1・2歳児	219	150	35	▲14
	0歳児	66	33	24	▲9
合計		590	411	150	

腰越地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27実入所数⑥	H29地域流動性⑨	差⑥+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		150	66	68	▲16
3号認定	1・2歳児	81	32	29	▲20
	0歳児	15	4	6	▲5
合計		246	102	103	

深沢地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27実入所数⑥	H29地域流動性⑨	差⑥+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		270	416	▲124	22
3号認定	1・2歳児	209	252	▲33	10
	0歳児	45	54	▲26	▲17
合計		524	722	▲183	

大船地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27実入所数⑥	H29地域流動性⑨	差⑥+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		383	482	▲56	43
3号認定	1・2歳児	294	324	▲22	8
	0歳児	72	69	▲9	▲12
合計		749	875	▲87	

玉縄地域		保育事業 (人)			
		H29量の見込み⑧	H27実入所数⑥	H29地域流動性⑨	差⑥+⑨-⑧
2号認定 (3歳以上児)		156	173	21	38
3号認定	1・2歳児	110	102	▲9	▲17
	0歳児	36	18	5	▲13
合計		302	293	17	

全市 (不足分)	
2号認定 (3歳以上児)	▲16
3号認定 1・2歳児	▲71
3号認定 0歳児	▲56
合計	▲143

### 3 平成 28 年度保育事業における量の見込みについて

平成 28 年度の保育ニーズの量の見込みについて、本プランにおけるニーズの量の見込みと想定されるニーズ量（平成 28 年 3 月 4 日時点における平成 28 年 4 月 1 日当初の保育認定児童数見込（継続利用が見込まれる既存施設に入所中の 0 歳から 4 歳児数に、他市からの受託申請を除く平成 28 年度新規認定・申込数を加えた件数））の比較は、表 21 のとおりです。3 月 4 日以降の申込みが生じるため確定したものではありませんが、0 歳児については 21 人下回るものの、3 歳以上児においては想定量が量の見込みを 175 人、1・2 歳児については 22 人上回り、全体では本プランが見込んだ保育事業の量の見込みと乖離が生じ、197 人（175 人+22 人）上回る状況が想定されています。

これは、1・2 歳児については、量の見込みを超えたニーズが発生していること、また、3 歳以上児については、2 歳から 3 歳に持ち上がる際のニーズが 3 歳以上児のニーズの量の見込みにおいて十分反映されなかったこと、また、世帯転入等により見込み以上のニーズが発生したことなどが考えられます。

表 21 平成 28 年度保育ニーズの量の見込みと想定されるニーズ量

全市	保育量		
	H28量の見込み①	H28想定量②	差②－①
2号認定（3歳以上児）	1,310	1,485	175 ↗
3号認定	1・2歳児	947	969 ↗
	0歳児	242	▲ 21 ↘
合計	2,499	2,675	

### 4 まとめ

教育事業については、平成 27 年度の実際の量の見込みがプランの量の見込みを下回っており、十分な提供体制が確保されていると考えられます。また、既存の提供量が平成 27 年度から平成 31 年度までの本プランの計画年度においても同様にニーズ量を上回っていることから、平成 27 年度以降においても十分な提供体制が確保されていると考えられます。

保育事業においては、平成 27 年度の実際の量の見込みが 0、1、2 歳児においてはプランの量の見込みを下回ったものの、3 歳以上児においては量の見込みを上回るニーズが生じました。また、確保方策においては、平成 27 年度の全体の確保方策の定員数を確保しながら、よりニーズの高い低年齢児の定員数の充実が図られました。

また、平成 29 年度に要する確保数に対しては、鎌倉地域及び腰越地域を中心として各地域での不足数が生じており、今後も整備が必要となっている状況です。

しかしながら、現在、量の見込みに対する実際のニーズを評価する際の指標、確保方策における定員を超えた入所数の考え方、量の見込みの乖離への対応等、今後必要となる確保方策を定めるに当たって必要となる考え方について課題が生じており、神奈川県が評価方法に係る市町村の疑義を集約し、国に考え方を示すよう要望するとともに神奈川県においても検討が行われているため、本プランの評価、また今後必要な整備体制について、国及び県の考え方を踏まえて整理を行う必要があります。